

ふれあい情報

2016年 9月9日(金) 第235号

■発行 日本退職者連合

■発行人 菅井義夫

■連絡先 〒101-0062

東京都千代田区神田駿河台 3-2-11

TEL 03-5295-0507 FAX03-5295-0541

<e-mail> ntr@sv.rengo-net.or.jp

<ホームページ> 「退職者連合」で検索してください。

名目下限措置（現在支給されている給付水準）は維持（日向寺氏）

年金問題に関する学習会を開催

安心の年金制度求め質疑応答で11名が発言



▲参加者100名を前に年金制度の課題と将来について熱く語る日向寺さん(8月30日、連合本部)

退職者連合は、「持続可能な公的年金制度におけるマクロ経済スライドの在り方とは」をテーマに8月30日午後1時半から、連合本部3階AB会議室で年金問題に関する学習会を開いた。台風9号の影響が心配されたが、北海道、千葉、新潟、神奈川、長崎など地方退職者連合からの参加も含め、会員約百名が会場を埋めた。講師は、厚生労働省年金局年金課の日向寺芽子課長補佐。講演後の質疑では、1時間10分にわたり会場から11名が発言して講師との真剣なやり取りが展開され、この課題への会員の関心の高さを示した。

学習会の冒頭主催者あいさつで阿部保吉会長は「2004年に導入されたマクロ経済スライドだが、退職者連合として名目下限方式の維持を前提にして、次世代の給付水準を確保する上で、(導入は)止むを得ないという考え方を出した。今回(国会に提出された年金改正法案で問題となっている)キャリアオーバーとは、どういうことか勉強しようということになった」と開催のねらいを語った

講演で日向寺氏は、はじめに年金制度の仕組み、公的年金の規模と役割、保険料負担と年金給付、主年年金制度改正、「私的な扶養」と「社会的な扶養」の関係、日本の人口の推移など年金制度の全体像を説明。続いてマクロ経済スライドの仕組みについて「現役世代の過重な負担を回避し、年金制度の長期的な持続可能性と国民の信頼を確保するため、保険料の上限を固定し、長期的に給付を調整するために導入したものであり、マクロ経済スライドは、現在の受給世代と将来の受給世代の給付のバランスを調整する



主催者あいさつする阿部会長。(同)

ものであり、これを適切に発動することが、将来世代の給付水準の確保に不可欠だ」と解説した。その上でキャリアオーバーについて「賃金・物価上昇の範囲内で前年度までの未調整分を調整すること」とし、退職者連合が一番心配している名目下限方式の維持について「現在の高齢世代に配慮しつつ、できる限り早期に調整する観点から名目下限措置を維持する」と明確に述べました。

質疑応答では、会場から11名が発言(次ページ)。予定を大幅に超えて日向寺氏との意見のやり取りがありました。

*日向寺氏の講演資料は、退職者連合のホームページ「資料関係」に掲載してありますので、ご覧ください。

マクロ経済スライドに不安がある(鉄道退)。公的財政が必要だ。消費税増税分を福祉目的税のように年金を使う考えがあるか(日退教)。非正規社員は、年金に入りたくても入れない。「持続可能な公的年金制度―」というなら、そういった視点も必要でないか(全印刷局退)。名目下限方式は、だいたいどうぶか(私鉄高退協)。非正規社員を入れると受給世代が破たんするのではないか(日退教)。取得代替率50%が、危うくなつたのではないか(JAMシニア)。老齡

会場からの主な発言(要旨)



▲台風にもめげずに会場は参加者で一杯となった。(8月30日)

基礎年金の延長についてどう思っているか(神奈川シニア)。キャリアオーバーを日本語でどう云えればいいのか。税と社会保障と一体改革をどのように考えているのか(JP労退)。キャリアオーバー導入は必要ない(JAMシニア)。年金制度、生活保護などの福祉、労働基準法などの学校教育を厚労省はどう考えているか(N退協)法人企業75万社が、違法に年金加入を怠っている。どう考えているか(JR総連OB)。

**中央労福協主催
第2回地方労福協会議
で特別報告**

9月7日、札幌市内のホテルで開催された中央労福協の第2回地方労福協会議で退職者連合の林道寛副事務局長は、「地域における退職者連合と地方労福協の連携強化に向けて」と題して20分にわたり、特別報告を行いました。

会議には、地方の各労福協から専務理事、事務局長など58名が出席。林副事務局長は「これから地域での連携がますます重要になっていく。元氣な年寄りをどんどん使ってください」と呼びかけました。

内閣府主催「平成28年度エイジレス・ライフ実践事例及び社会参加活動事例」

退職者連合から2個人、1団体が受章

退職者連合では、今年度エイジレス・ライフと社会参加活動実践事例について地域で活動する退職者連合の会員・団体を紹介・推薦したところ、次の2個人と1団体が表章されました。(写真)

なお、賞状と楯の伝達式を2016全国高齢者集会でを行います。

<個人の部>

牧田成子さん(UAゼン友の会)

田中 薫さん(UAゼン友の会)

<団体の部>

段山ひよっこ愛好会

代表 宮田博光さん

(NTT労退職者の会熊本県支部)

エイジレス・ライフ実践事例と社会参加活動事例とは…。

高齢社会での生き方の例として、エイジレス・ライフを楽しんでいる個人や社会参加活動を積極的に行っているグループを紹介し、高齢期を迎えたりこれから迎えようとする世代の生活の参考にしていただくことを目的として内閣府が1995年9月からスタートさせたものです。退職者連合では、趣旨に賛同して昨年から参加しています。

○詳しくは、退職者連合のホームページをご覧ください。



牧田成子さん



田中 薫さん



▲段山ひよっこ愛好会のみなさん